

先陣を切る青年部一暖かく がツチリそれを支える年輩者

「国鉄三十五万人体制攻撃粉碎！ 五五・一
争貫徹！ 不当処分組織破壊攻撃粉碎！ 動
労千葉新小岩支部青年部」——白地に赤・青・
黒三色の四枚張り看板が色鮮かにだんだんとで
きてくる。外ではD.L.がひっきりなしに気笛、
轟音をとどろかせて貨車の入れ換えをやっている。
「どうだい、できたかい？」松崎支部長も
顔をのぞかせ、若者たちの協同「芸術？」ぶり
を眼を細めてうれしそうに見守っている。二階
乗務員詰所の窓から身をのり出して、年輩組合
員の手も貸りて『不当処分粉碎……』の垂れ幕
も設置された。若者も年輩者も、走りまわる機
関車・貨車のひびきも、なにもかも機関区特有
の潤達さと人情味を感じさせる。
さあ、そろそろ完成するぞ。五・二五大結集
にむかって、大車輪の回転速度も確実に上って
きている。



「オイ、お前、また汚したぞ
！」「アッ！ 悪！ 悪！」
筆がよくねえナ！」「なに言っ
てんだ、腕だよ腕！」——「さ
はや、そのにぎやかなこと。
二階講習室で、大岩教宣部長、
大藤青年部長先頭に、青年部員
が集まって、皆でカラートタン
板四枚張りの看板づくりをやっ
ていた。仕事のあい間を見て、
乗務員や検修、その他の若い仲
間が立ち寄り輪ができる。
「俺にも一寸やらせろヨ！」
と気軽に筆をとってネオカラー
を塗ってゆく。筆を手にするの
少し緊張した面持ちに変わるの
だ。「ア、はみ出しちゃった！
！！」「アッハ……ハ！！」——に
ぎやかな声が部屋中にはずむ。

新小岩

5.25 三里塚総決起で不当処分策動を粉碎せよ！
5月総決起行動の取場を訪ねて その2

日刊 動力労千葉

80.5.23
NO. 436

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（電話）二五八〇九・公衆電話（22）七二〇七



幕張

千葉にむかって電車が津田沼
駅を発車すると、しばらくして
広大な幕張電車区をまっすぐつ
つさる。とたんに左手にズーと
長く続く構内壁（コンクリート
土手）に『三里塚軍事空港粉碎
……不当処分許すな！……闘
う韓国労働者学生と連帯し……』
と石灰の白も鮮かに大書され
たスローガンの数々が眼にとび
こんでくる。すごい！ あの長
い壁の端から端までズラリと
描きまくってしまったという感
じだからおそろしい。六、七百
メートルもあるのか！ しかも
今回は（失礼！）ていねいに描
き上げている。電車の乗客も「
オッ」という顔でジッと注視し
ている。「圧感」の一語につきる。
早速、昼休みの幕張電車区を
取材で訪ねた。二階の検修詰所
で青年部の〇君と顔をあわせた。
「ン！ ヤッタネ！」というと
ニコッと笑って「ナップ服上下
一丁石灰でダメにしちやいまし
たよ。みんな身体中、まっ白け
……」。なるほど服とズボン
は真新しいのだが靴と髪の毛に
昨夜の「犯行??」の根拠ありと
見た。徹夜あけの眼も赤い。
二百名を越える最大支部幕張
は、選挙その他連日の動員の続
く中で、日勤職場の特徴をよく
生かして、総決起体制づくり
にまい進している。昨夜、青年部
の活動家が大学職場に泊り込ん
で夜中じゅうかけて描き上げた
苦心の作なのだ。使った石灰
四袋！
同時に縦二M、横七Mの横断
幕も三本描き上げ、朝、みんな
で総武本線や京葉高速道からバ
ツチリ見える屋上や庁舎壁にと
りつけたという。不当処分策動
問題が出てきて以降の職場のふ
ん囲気は、たしかに従来とは異
なった緊張と怒りを充満させてい
る。九日の職場集会には百十名
が集まり、それぞれの部署で「
五月総決起・総行動」を開始し
ているのだ。当面五・二五全力
決起の力で処分攻撃を許さぬ体
制づくりをめざし奮闘している。

